6. 技術と職業の教育

裁縫女学校の存立構造と地域社会
—鶴岡裁縫学校の社会学的分析—

〇鈴木 哲道 SUZUKI Tomomichi 日本学術振興会特別研究員
〇羽田野 善子 HATANO Keiko 東京大学大学院
〇寺崎 里水 TERASAKI Saomi お茶の水女子大学大学院
広田 照幸 HIROTA Teruyuki 東京大学

I. 問題の所在

本報告は、山形県の一地方都市に設立された裁縫学校を対象にして、大正期から昭和初期にかけてこの学校が、地域社会との関係のなかで形成される構造や制度を有していたのかを、社会経済図や地域の裁縫家構造といった文脈に位置づけて考察することを目指としている。これまでの裁縫教育研究は、主として高等女学校を対象としていることから、主にその技法的、理念的、思想的なレベルで研究が展開されてきた。しかし、その一翼を担った裁縫女学校については、地域の要請から自然発生的に生まれた女子中等教育機関、その大きな部分を占めていた裁縫女学校の存立構造は、その具体的な姿はあまり明らかにされてこなかった。また、戦前の多分な女子中等教育機関のあり方にについて、高女一実科女一各種女学校の三層構造をなしていたとの指摘がなされているが、そのような構造は、設置者（国立立、私立）や高等教育との関係の如何、カリキュラムにおける家政教育の比重のどのくらいが中実体に大きく関与しているかについては検討できるものであり、入学者の属性や社会階層、地域における学校支持などの対応関係は、いまなお明らかにされていない。

そこで本報告では、ひとつ一つの学校を例にして、学校所蔵資料、論説に基づく個別データやインタビュー、データなどをもとに、裁縫女学校の姿を多面的に挙げることとすると、それを通して、裁縫女学校が女性の社会化と地域社会の双方向に果たしていた歴史的意味について考察してみたい。

II. 分析対象地域のプロフィール—鶴岡—

III. 鶴岡裁縫学校の立地環境とカリキュラム

IV. 鶴岡裁縫学校入学者の数値分析

ここでは、鶴岡期の社会的変化と学校昇格後の教育目的が大きく変化していることに注目し、鶴岡裁縫学校の立地環境から作成した裁縫裁縫学校の地域特性をもとに、数値的に学校明鏡の特徴を把握し、学校と地域へと制約変化を遂げた鶴岡裁縫学校地域におけるこのような機能を果たしたのかを考察する。

第1に目指すのは鶴岡期と学校昇格期の地域学的変化である。伊藤塾の第1期卒業生（1924年卒）から学校昇格
6. 技術と職業の教育

直前の13回卒業生（1984年卒）について、鳥取高等学校の卒業生名簿を照らし合わせると、第1回では本科と実業を合わせて282名を占めた高校卒業生の卒業生は、やや減少傾向を示すものの4割前後で推移しており、鳥取高等学校卒業生との何らかの関係を持っていたことが裏付けられる。これと同時に鳥取高等学校高等科、高等で卒業生を求めるходят、入学資格の高校卒業者2年生が占めて1名に満たないのもはと、鳥取高等学校卒業生を受入れていただかないばかりでなく、その数においても1年で4割を超える。これから、鳥取高等学校は生徒数において、鳥取高等学校の学生数に大きな教育機会を提供する役割を果たしたといえる。また、高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし、さらに高校の卒業生が鳥取高等学校卒業生の数を増やすことによって、鳥取高等学校を総務的にも、より多くの学生を受入れる機会を果たし。